

第11回南区自治協議会 会議概要

日 時 平成31年2月27日(水) 午後1時～午後3時45分

会 場 新潟市南区役所4階 講堂

次 第 1 開会

2 報告・連絡事項

- (1) 総合ハザードマップの全戸配布について(防災課)
- (2) 平成31年度南区予算案及び南区役所組織改正について(地域総務課)
- (3) 部会報告
- (4) 平成31年度区バス等の運行について(地域総務課)
- (5) 国道8号バイパス全線開通イベント及び記念式典について(建設課)
- (6) その他

3 市長との懇談会

- ・2019年度 新潟市の取り組み

4 次回全体会の日程について

3月27日(水) 南区役所 午後2時30分から

5 閉会

事前配布資料

- 資料1 総合ハザードマップの全戸配布について
- 資料2 平成31年度南区の主な事業

当日配布資料

- 資料3 部会報告
- 資料4 平成31年度区バス等の運行について
- その他資料 平成31年2月17日発行 南区役所だより「みなみ風」
2019年度 新潟市の取り組み

出席委員： 斎藤栄樹委員，山際和美委員，田村義三郎委員，青木智子委員，
小林 誠委員，小柳雅弘委員，有田正己委員，小林公子委員，
鞠子幸一委員，富井 敦委員，笹川和代委員，内城大三郎委員，
寺澤和江委員，梅津繁明委員，渡邊喜夫委員，小嶋ノリ委員，
豊岡博子委員，渋川博子委員，大那 孝委員，町屋参吉委員，
山宮勇雄委員，児玉一幸委員，田中容子委員，早見真由美委員，
小田信雄委員

以上25名

欠席委員： 関根功雄委員，原 正行委員，鈴木照子委員，本間智美委員，
和泉美春委員

事務局： 渡辺区長，高野副区長，佐藤地域総務課長補佐，藤村地域総務課長補佐，
岡村地域総務課主幹，新井田同主幹，立川同主幹，宮本同係長，

笠原同主査，池田同副主査，野田同主事

関係課： 内藤区民生活課長，田中健康福祉課長，靄巻産業振興課長補佐，
吉田建設課長，島倉味方出張所長，登石月潟出張所長，
川崎農業委員会事務局長，長谷部教育支援センター所長，
牛腸白根地区公民館長，赤塚建設課長補佐

報道 1名 (新潟日報社)

傍聴者 2名

(午後2時30分)

1 開会

○事務局(佐藤地域総務課長補佐) (配付資料の確認)

○議長(小田会長) 早いもので2月もあと1日を残すのみとなった。2月は古来、如月と言うが、とても如月の表現が不似合いなひと月であった。もう春真っ盛りである。そんな中、今日はいつもの定例会よりも1時間、早い開会だが、曲げてお差し繰りをいただき、感謝申し上げる。今日は、私どもに与えられた案件の審議のほか、中原市長との懇談がこの後に控えている。スムーズな会議の進行にご協力をよろしくお願いする。

2月定例会本会議をただいまから開催する。

欠席者の報告

傍聴者の報告(所定の手続きを経て、傍聴していることを報告)

2 報告・連絡事項

(1) 総合ハザードマップの全戸配布について(防災課)

○議長(小田会長) 次第第2(1)総合ハザードマップの全戸配布について、新潟市役所の防災課よりおいでいただいているので、説明いただく。

○中間防災課主幹 新潟市総合ハザードマップ全戸配布についての御説明をする。資料1をご覧いただきたい。このたび、新潟市では総合ハザードマップを作成し、自治会町内会長のご協力により全戸配布するということである。この総合ハザードマップだが、東日本大震災の大津波や平成27年の鬼怒川の決壊のように、これまでの想定を上回る災害というものが起きていることから、これまでの想定を見直し、洪水、津波については最大クラスの災害を想定したハザードマップを作成した。洪水については、これまで100年程度の大雨の予想から千年に一度の大雨が降ることを想定したシミュレーションとなっている。津波については、国が公表した新たな知見を加えた津波を想定している。ちなみに南区内においては、津波が来る部分も一部あるのだが、人家に到達しない想定となっている。

次に、1総合ハザードマップについての(1)の災害種別についてだが、これまで災害ごとにばらばらにハザードマップを作成していたものを、今回、新たに作成した洪水、津波のハザードマップとこれまで作成済みである土砂災害、浸水、ため池の各種マップを一つにまとめて1冊の冊子にしたというものである。ただ、南区内においては、総合とは言いつつも、土砂災害の場所がなく、ため池の対象区域がない。浸水のマップについては、下水道部のほうが出来て、今現在ない。津波も一部の地域で来るということで、実質、南区においては、洪水のハザードマップになっているということで、総合では結果的にはないような形となっている。

(2)の地域の種別だが、これまでには区単位でのマップということだったが、今回の総合ハザードマップにおいては、地域の地形などが細かく分かるよう、中学校区単位で区分けをして作っている。ちなみに南区においては、6中学校区に分割して作成している。

この一枚紙の裏面にハザードマップを活用した災害の備えというものも載せている。今回は時間の都合上、省略するが、時間のあるときにご覧いただきたい。

次に実際にハザードマップの見方についてご説明する。お手元にお配りしてある黄色い表紙の冊子をご覧いただきたい。今回、説明上、白根第一中学校を例として説明させていただく。まず表紙だが、表紙の中に該当する中学校区名が書いてあって、その左側にどういった災害が載っているかというインデックスがついている。開いていただくと、1ページ、2ページ、3ページ、4ページが学習面として、この災害での特徴や対応を載せている。5ページ、6ページ、7ページ、8ページが、実際に洪水が起きたときの洪水によって浸水がどのくらいの高さになるかということの色別で表した、いわゆるハザードマップとなっている。色の深さの凡例については、右下のほうに4色の色で区分けしている。また、あわせて、この地図の下に各種避難所の記載があるが、これが河川によってどこまで水が来るので、何階以上に避難することを表した表となっている。例えば、7ページの左下の表に、22白根第一中学校の避難所があると思うが、この場合、例えば、信濃川が氾濫した場合は、1階まで浸水するので2階以上に避難することになる。そういった形の評価を表している。

9ページ、10ページについては、災害に備えた事前の心構えということだとか、災害時における避難の心構えを載せている。また、9ページの下のほうには、市が発令する避難情報の種類などを掲載している。10ページが、災害の避難情報などをいち早くキャッチするためのいろいろなツールというか、手段について載せている。この説明の後、高齢者や視覚障がい者が情報をキャッチするための機器の説明もさせていただきたいと思う。最後、裏表紙だが、南区全体の避難所の表になっており、ここに河川別での避難する高さ、階数などを表している。

以上が実際のハザードマップの見方だが、もう一度、こちらの一枚紙のほうに戻っていただきたいのだが、この下の2の全戸配布の方法・時期についてである。本日から自治会町内会長のお宅にハザードマップをお送りさせていただきたいと思う。それを順次、各世帯への配布についてはご協力をいただきたい。大変お手数をおかけすると思うが、このハザードマップが有効に活用できるように、何とぞご協力をお願いしたいと思う。まず、ハザードマップの説明である。

○西野危機管理防災局参事 私から情報伝達手段の中でも、緊急告知FMラジオについてご説明させていただく。ハザードマップの次の資料に、カラーで「新潟市緊急告知FMラジオ購入補助制度のご案内」というチラシの説明である。

実際のラジオについては、中央部分にある写真に載っているものである。大きさはA4の紙を半分に折ったくらいのもので、厚さが3センチから5センチくらいの非常に軽いものとなっている。このラジオは、緊急地震速報、津波警報、その他水害等による避難情報など緊急情報を受信した際には、電源がオフの状態であっても、自動的に起動し、最大音量でその緊急情報を発信するようになっている。このラジオは、コンセントにつないでも使用でき、乾電池を入れていただいても使用できる。したがって、停電のとき、あるいは避難のとき、避難先でもお持ちいただければ、そこで引き続き情報を入手することができるようになっている。もちろん通常のラジオ情報も受信できるが、安価に作るということもあり、受信できるFM局はFM-N I I G A T A 1社のみとなっていることをご了承いただきたい。

次に、購入補助制度についてだが、中央より右下部分に書いてあるとおり、この緊急告知FMラジオを購入するに当たり、赤でくくった条件を満たすご家庭だと、補助を受けることができる。75歳以上の高齢者のみの世帯、視覚障がいの方がいらっしゃる世帯が対象となっている。補助額は上限6,000円となっている。このラジオについては、現在、市内のコメリ15店舗全店でお買い求めすることができる。値段は税込み1万800円となっている。補助額が6,000円となるので、個人負担は最大4,800円となる。このチラシの裏面は、FMラジオ購入補助金の交付申請書となる。さらにその次の紙に、購入補助金の手続きについて記載してあるので、ご確認いただければと思う。なお、最後の紙には、その他の情報入手手段として、新潟防災メール、新潟防災アプリといったものを紹介しているので、ぜひ登録、ご加入いただければと思う。

○議長（小田会長） 今、新潟市総合ハザードマップの全戸配布について説明を受けた。ハザードマップについては、ここ三、四年、県のハザードマップも含め、二転三転し、大変な不安を市民、区民に与えていた時期もあった。今回、南区では水害に特化しているが、地震、土砂災害、津波、これらを含める総合ハザードマップが初めて全戸に配布されるとのことである。このことについて、皆さん方からのご意見、あるいはご質問をちょうだいする。

○富井委員 ハザードマップの件だが、地図の5、6を見ると、避難所がある一点に集中している。ということで中身の避難所を見たが、民間の避難所が書いていないのだが、先ほどちらっと見たら、小林地区の何かあった。それだと民間のものも入っている。民間のものも入れたほうが良いと思うがいかがか。

○事務局（立川地域総務課主幹） 民間の避難所については、ここには記載してなく、あくまでも指定避難所が記載されている。

○富井委員 これは何回も書き替えた保存版だろう。二、三年前にもこういう同じようなものをもらったが、災害が起こってはいけないのだけれど、実際に何かあったときに逃げられないじゃないか。民間の避難所は関係なくはないわけだ。何かの形でみんなに周知するとか、配ってもらったほうが良いのではないかと思うがどうか。

○事務局（立川地域総務課主幹） 一時避難場所についてのことを言われていると思うが、一時避難場所については市が協定しているもの、イオン、JA、新潟電子工業等あるが、ほかの部分については自治会やコミュニティ協議会などが協定を結んでいるものもあるので、その辺の周知方法については、今後、地域とまた相談しながら考えていきたいと思う。

○渡邊委員 先ほど、洪水ハザードマップの平成30年3月作成の分を今、ご説明されたが、その前に配布の資料の中で、津波ハザードマップというものが平成30年8月に作成したと書いてあるが、これは我々南区については全然影響がないからということで配布されなかったのかどうか。今後、配布される予定なのか。その辺についてお聞きしたい。

○本間防災課主幹 今回説明した白根第一中学校においては、津波の影響がないということで入ってはいないが、味方中学校、白根北中学校区においては、一部、津波が来る場所があるので、その中学校区の冊子には、津波のページが入った形となっている。

○渡邊委員 今のご説明で了解した。そうすると地域によってプラスアルファがあるということでよろしいわけか。

○議長（小田会長） 本間主幹、津波の影響は信濃川、中ノ口川、新川の津波遡上の浸水被害の件だろう。南区に影響するところは。

○本間防災課主幹 白根北中の部分については、信濃川、中ノ口川のあたりの堤外地のところにかかっていると。味方については想定だが、新川の堤防が崩れて、津波というよりは新川の水が黒埼のほうから流れ込んで田んぼに引っかかるという想定になっている。

○議長（小田会長） ほかにどうぞ。ご意見がないようなので、総合ハザードマップの全戸配布については、これで終了させていただく。

○渡邊委員 先ほどハザードマップの質問をさせてもらったが、緊急告知のFMラジオについては、申込期限といったものがないわけなので、常時受付で期限なしという理解をしてよろしいか。

○西野危機管理防災局参事 現在、緊急告知FMラジオの補助制度については、今年度末までとなっており、3月31日をもって、このチラシについては有効期限が切れることとなる。今後については、現在、議会で議論中なので、継続になるのかについては、その結果による。

○渡邊委員 それで恐らく、今後は、高齢者世帯が増えるということを予測されているわけだから、できるだけ予算措置を講じていただいて、いつでも、来年でも忘れていた人がまた申し込めるといのご考慮をお願いしたいという要望である。よろしく願います。

○西野危機管理防災局参事 承った。

○議長（小田会長） よろしいだろうか。会議を進める。

（2）平成31年度南区予算案及び南区役所組織改正について（地域総務課）

○議長（小田会長） 続いて、平成31年度南区予算案及び南区役所の組織改正について、地域総務課からお話をちょうだいする。

○高野副区長 まず、平成31年度の南区の当初予算についてご説明する。資料2をご覧ください。こちらは平成31年度の特徴ある区づくり事業などの主な事業を南区ビジョンの体系に落とし込みまとめたものである。特徴ある区づくり事業については、10月自治協議会、11月の各部会において、それぞれ事業概要について説明させていただいていることから、ここでは特に南区の特徴的な部分についてご説明する。まず、資料右下の自治協議会提案事業についてであ

る。こちらは拡充となっている。平成31年度から500万円という制限がなくなり、流動性が担保されたことから、総額を100万円増の600万円とし、増額分は記載にあるまちづくり活動サポート事業の原資とした。なお、参考だが、各区の平成31年度自治協議会提案事業の予算規模は、前年並み500万円とした区が4区、500万円より減少した区が3区であり、増額した区は南区のみである。この増額により、コミュニティ協議会、地域活動団体による地域課題の解決、その取組みが促進し、さらなる南区の活性化を期待して増額したものである。

続いて、区づくり事業以外の南区の主な事業についてである。一番下に記載のある区政振興関係、地域おこし協力隊を活用した地域活性化事業【新規】である。こちらは新潟市として初めて総務省の地域おこし協力隊制度を活用して、都市圏から新潟市南区に移住可能な方を一人公募する。事業スケジュールとして、4月から公募を開始し、6月には地域おこし協力隊員として委嘱する予定である。隊員となった方からは、よそ者の視点と柔軟な発想により、地域の活性化に向け大いに活躍いただきたいと考えている。また、3年の委嘱期間が終了した後は、隊員となった方の定住、定着を図ってまいる。予算についての説明は以上である。

続いて、平成31年度南区役所の組織の改正の概要についてご説明する。こちらの資料はない。

改正箇所については3点ある。1点目は、区役所における税関係の納税証明の窓口を区民生活課に移管し、窓口を一体化する。これによりワンストップサービスの充実を図ってまいる。これに伴い区民生活課の保険年金係の名称が「税保険年金係」と変わる。2点目については、南区の出張所の見直しである。先月の自治協議会で本庁の行政経営課の課長から説明があったとおり、平成31年度から出張所としての基本的機能は残しつつ、業務の見直しを行う。具体的には、取り扱いの件数が少ない専門性の高い一部の手続きを区役所に集約することにより、区役所と役割分担を明確化して、市民サービスの充実、強化を図っていくものである。最後3点目は、建設課のまちづくり係をグループ制に移行する。これは業務の効率化を図るものである。周知については、区役所、出張所にチラシを配布するほか、区だより、ホームページなどでお知らせをしてまいる。

○議長（小田会長） 今、南区における平成31年度の予算案及び南区役所の組織改正の内容について、地域総務課長から説明をいただいた。前回、あるいは前々回の会議にも触れられた件だが、再度、皆様方からのご意見、ご質問をちょうだいする。

○小林（誠）委員 地域おこし協力隊についてお聞きしたいのだが、やっとな新潟市もやるのかなというところだと思うが、私が佐渡に行ったときにいろいろお世話になったが、まず南区の中で、南区はだいぶ広いのだが、どの地域に配置するのかということによって違ってくると思うし、新潟市は8区ある中で、新潟市が協力隊を何名用意するのかということをお聞きしたい。

○高野副区長 地域おこし協力隊だが、委員ご発言のとおり、三条やほかの地域ではすでに導入している。設置の場所については、区産業振興課に籍を置いて、例えば観光協会やNPO法人などと連携し、南区の事業のお手伝いをしていただくということを想定しており、人数については1名。ただ、委嘱の期間が制度上、3年以内ということなので、その成果を見たらうで増員を図っていくという予定にしている。

○小林（誠）委員 南区のみということではよろしいか。

○高野副区長 今回の事業は予算要求時は、パイロット的に南区でやって、それを各区に広げていくということであったが、結果、南区のみで行うということになった。ただ、成果を見たらうで広げていく可能性もあると思う。

○議長（小田会長） 今、地域おこし協力隊についての質疑が行われている。委員の皆さん方も地域おこし協力隊について不案内な方もいらっしゃると思うが、もしお聞きになりたい点があればどうぞ。新潟市で初めて導入される事業、しかも南区で1名採用するという計画である。この辺についてご意見があればどうぞ。

○議長（小田会長） 今、新潟県で三十数名、現在入っていらっしゃると思うが、間違いはないか。

○高野副区長 古い数字で申し訳ないが、平成29年度の数字だと、県内で165名。多いところでは長岡市で16名、三条市で18名となっている。

○議長（小田会長） 30程の地域で採用しているかと。

○高野副区長 新潟県の中で、平成29年度導入市町村数は22である。

○議長（小田会長） ほかにどうぞ。

まちづくり活動サポート事業も、委員の皆さん方の熱心な働きかけと議論の結果、自治協議会提案事業で8区の中で私ども南区だけが増額。500万円から100万円増の600万円という予算を確保されている。現在は議会での審議中だが、ぜひとも地域へのPRを委員の皆さん方からも積極的に進めていただきまして、今年度以上に多数の応募と、そしてよりよい成果が得られるように、ご協力をお願いしたいと思う。

平成31年度南区予算の概略説明及び南区組織改正についての審議をとじさせていただきます。

（3） 部会報告

○議長（小田会長） 続いて、（3）部会報告である。第1部会から広報部会まで順次説明をいただく。まず、第1部会だが、部会長の本間委員が欠席なので、第1部会は副部会長の鞠子委員から報告いただく。

○鞠子委員 第1部会においては、区の提案事業の中には、公共交通のPR事業と防犯防災の啓発事業という二つのテーマに対して、今回、その内容について評価したという形である。中身は、今、皆さんのお手元にある報告では1行になっているが、具体的な話を言うと、実際、バスの装飾イベントなどを昨年1回から3回に増やしたということで、親しみを持つという意味においては、展開できたかと思っているが、残念ながら中高生が今、学校のスクールバスとか何かがよく動いていて、皆様も見ると思うので、全体的には約5パーセントくらいが減ってしまったという形である。だから、ある路線に限って減ったと。ほかについては、微増しているという状況である。今後、このテーマについては、買い物や目的に沿った活動をする。ほかの西区や秋葉区などを参考にしながら、また事業を進めていきたいと考えている。

もう一つの防犯防災啓発事業については、今年小学校1年生に反射材の配布という形でやったが、今後についても同様の活動をしていくが、南区の防災について、今、機運が盛り上がっているということがあり、自治協議会の第1部会として、今年はたしか11月17日に防災訓練があるが、南区全体が小学校も中学校も高校も警察も消防も、みんなまとめてやるような形でできないかということで、議論させていただいた。

○議長（小田会長） 続いて、第2部会長の田中委員からご報告いただく。

○田中委員 第11回第2部会は、平成31年2月7日に開催した。会議内容として、平成30年度自治協議会提案事業評価についてである。協議結果と平成30年度自治協議会提案事業について、部会員の意見を基に事業の評価と課題の取りまとめを行った。今年度の家族ふれ愛事業の映画上映会が大変好評だったので、来年度も映画にしてはどうかという意見が部会の中で出ていた。

○議長（小田会長） 続いて、例月だと第3部会の報告だが、定例会が開催されなかったため、広報部会の青木委員から報告いただく。

○青木委員 第11回広報部会を2月18日に開催した。南区自治協議会だより第14号。これは3月17日発行予定である。表面には平成30年度南区まちづくり活動サポート事業の実施報告を二つ。一つ目は、郷土愛にあふれる青少年育成事業、二つ目は臼井大壁画。この二つを掲載する。裏面は出会いの場づくり事業の報告、南区自治協議会研修に参加しての報告。それと南区自治協議会6期をふり返ってということで、会長のあいさつを掲載している。

○議長（小田会長） 年度末に近い部会だったので、おのおのの部会で評価とまとめを中心にご報告いただいた。今の三つの部会の報告についてご意見、ご質問があればご発言いただきたい。ないようなので会議を進める。

（4） 平成31年度区バス等の運行について（地域総務課）

○議長（小田会長） 続いて、（4）平成31年度区バス運行について、地域総務課から説明いただく。

○高野副区長 区バス、路線バスの変更についてご報告する。資料4をご覧ください。記載の概要欄にあるように、このたびの区バス運行計画の変更は、運行事業者の動態調査、利用者への聴き取り等に基づいて、利便性・利用率の向上、定時運行の確保のため行うものである。また、

路線バスについては、運行事業者の運転手不足を背景に、利用実態に合った持続可能な運行形態に見直しをするものである。なお、今回の区バス運行計画の変更、路線バスの見直しについては、先月1月22日開催の新潟市地域公共交通会議で説明し、了承されているものである。資料4の中ほど、南区バス関係である。

こちら1北部ルート第1便、始発バス停の変更についてである。この便は、白根小学校、児童の登校に合わせた運行で、春・夏・冬休みの期間は運休している。現在、ルート上にない三ヶ字（北）からの乗車希望児童が6名いることから、地元要望をふまえて、三ヶ字（北）を始発バス停に変更するものである。

下の2北部ルート第3便は、現行より30分繰り下げて運行するものである。その前の2便の運行時刻を平成30年12月より繰り下げたことに伴い、中心部の滞在時間に余裕を持たせるための変更となる。

裏面をめくっていただき、3北部ルート第4便、その下の4白根さつき野駅ルート第2便である。こちらの内容だが、始発、終点を新潟白根総合病院に変更することと、白根高校前を経由するルートに変更するものである。これにより白根高校生が朝・夕と学校前から直接バスで移動できるようになり、利便性向上と新規の利用者も増えると考えている。

下の5白根さつき野駅ルート第3便の終点変更である。この便は、始発さつき野駅から運行しているが、大通地区を通過すると終点の南区役所まで乗車している方がほとんどいない状態である。そういったことから、終点を上塩俵に変更するものである。なお、同ルートの第4便は、これまでどおり南区役所まで運行する。

続いて、次のページである。まちなか循環バス「ぐるりん号」である。変更内容は午前8時発の第1便の減便である。こちらについては、白根高校生の利用に合わせ平成30年4月より早朝便の運行を行ったが、高校生の利用はなかった。この第1便の利用者が極めて少ない状況であるため、減便するものである。なお、ぐるりん号だが、4月以降も引き続き、社会実験として1日7便で運行する。

最後に路線バス関係である。変更内容は、白根桜町から曾根駅前線の路線バスのジャンボタクシー化である。1便平均2.2人、最大で5人という利用実態に合わせて、タクシー事業者によるジャンボタクシー車両での運行に見直すものである。

○議長（小田会長） 今、区バスについて、社会実験のまちなか循環バス「ぐるりん号」、そして路線バスの変更について、ひととおり説明をちょうだいした。第1部会の報告の中にもたびたび出てきたが、皆さん方のほうから再度、ご意見をちょうだいする。ないようなので会議を進める。

（5） 国道8号白根バイパス全線開通イベント及び記念式典について（建設課）

○議長（小田会長） 次第第2（5）国道8号白根バイパス全線開通イベント及び記念式典について、建設課より説明いただく。

○赤塚建設課長補佐 私からは、来月3月10日（日）に開通する国道8号白根バイパス全線開通記念イベントと記念式典について報告をさせていただきます。国道8号白根バイパスは、平成3年に事業化され、27年の長い経過を経て、ようやく来月3月10日午後3時に開通する予定となっている。区民の皆様が待ちに待った全線開通に合わせて、国道8号白根バイパス全線開通記念イベント実行委員会の主催でイベントを計画している。多くの皆様から来ていただき、区民一緒にこの開通を祝いたいと考えている。全線開通記念イベントについては、皆様のお手元にある南区役所だより「みなみ風」の2月17日号により説明させていただくのでよろしく願います。

まずは記念開通イベントの会場だが、みなみ風の右側の位置図をご覧ください。白根バイパスの敷地内で、今回、開通する保坂から鯉瀬の区間で、鯉瀬側の道路上でイベントを行う。位置図の赤く長方形の形に線が引かれている場所がイベント会場。開通記念イベント会場ということで、赤い吹き出しで記載されているところが会場となる。

次に、開通イベントの内容だが、みなみ風の左側中ほどをご覧ください。イベントの時間については、午前10時から午後零時半までの予定である。「見て感動！！」していただくため、消防車両の展示。白根大風合戦による凧揚げ、白根大風太鼓「勇南」による太鼓の披露。新潟市

消防音楽隊による演奏などを行う。また、「食べて感動！！」していただくために、白根商工会によるでんぶ焼き、紅白まんじゅうや白根観光きのこと園による甘酒やおしるこ、きのこ汁の振る舞い。ゆうーわによるもちむぎの配布や、JA新潟みらい提供のいちごの試食などを予定している。そして、「癒やされ・楽しんで感動！！」をしていただくために、白根青年会議所による射的やJA新潟みらい提供のお花のプレゼント。チューリップの切り花だが、それらがある。

続いて、開通記念ウォーキングである。みなみ風の左側下をご覧ください。開通前のバイパスを歩いてみないかということで、開通直前の道路上でウォーキングイベントを開催する。白根バイパスの保坂側から9時半にスタートして、鯨潟方向に向かってのウォーキングとなる。午前9時に区役所正面玄関の階段前に集合していただき、無料のシャトルバスで現地へ向かう。参加料は無料、事前の申込みは不要である。

イベントの当日の交通については、みなみ風の一番下をご覧ください。イベント会場には駐車スペースはない。白根学習館と南区役所の駐車場をご利用いただきたい。白根学習館駐車場とイベント会場、南区役所駐車場とイベント会場への往復無料シャトルバスを随時、運行する。

最後に、右側の位置図の下側をご覧ください。当日、天候によりイベント内容が変更になる場合がある。なお、荒れた天気の場合は中止となる。中止の場合は、南区及び南区観光協会のホームページで、前日の3月9日正午からお知らせする。また、区役所、白根学習館駐車場に中止の掲示をする。

次に、国道8号バイパスの道路上での開通イベントと合わせて、白根学習館ラズベックホールでは、北陸地方整備局主催で、国道8号白根バイパス全線開通式典を午前10時半から行うので、その内容について説明させていただく。資料については、特に用意していない。口頭で説明をさせていただく。開通式典は、主催者の式辞やあいさつ、来賓の皆様の祝辞や事業報告などを行う。その後、開通イベントを行う現地会場へ移動して、11時40分からテープカット、バルーンリリース、11時50分ごろに車両パレードを行って、12時に開通式典は閉会する予定となっている。以上、国道8号白根バイパス全線開通記念イベント及び開通式典について説明をさせていただいた。

○議長（小田会長） 今、およそ30年かかった8号白根バイパスの全線開通に伴う式典、あるいはイベントの一連の説明をいただいた。今、関係コミュニティ、小林、白根のコミュニティの皆さん方、あるいは商工会、観光協会、一連の動きを展開している。大詰めを迎えているかと思う。皆さん方のほうからあえてご意見があればどうぞ。あるいは質問でもけっこうである。

○洪川委員 シャトルバスが出るということだが、車イスでも大丈夫なのだろうか。

○議長（小田会長） シャトルバスは、車イスでも大丈夫かというご意見である。

○赤塚建設課長補佐 車イスのほうについては、まだ確認していなかったもので、また後でお知らせしたいと思う。

○議長（小田会長） ぜひ対応をお願いします。

○大那委員 イベント当日の交通についてを午前10時から午後1時まで無料シャトルバスを運行すると書いてあるが、イベントの中に「食べて感動！！」というところで、でんぶ焼き、紅白まんじゅう等が配られるわけだが、これが10時からということで、10時にシャトルバスが出ると、この会場へ行くと、恐らくこの紅白まんじゅうは全然ないと思う。先回の開通のときに、どのような配り方をしたのか。あつという間に紅白のまんじゅうがなくなっているのである。何分もしないうちになくなっている。これでは、このシャトルバスに乗っていった方は、記念の紅白まんじゅうをいただけないと思う。

○赤塚建設課長補佐 前回の開通イベントのときは、一斉に集まられて、確かに振る舞い餅などなくなったかと思うが、今回、10時だったら10時。シャトルバス第1便に合わせて皆さんに待ってもらうような形で、もらう方を整理させていただきながら、できるだけ皆さんのお手元に届くような形で工夫したいと思っている。

○大那委員 そのように手配をよろしくをお願いします。

○議長（小田会長） ほかに発言どうぞ。ないようなので会議を進める。

（6） その他

○議長（小田会長） 続いて、(6) その他について、事務局からは何かあるか。

では、委員の皆さん方から報告事項、あるいはご連絡事項があればどうぞ。

○笹川委員 まちづくり活動サポート事業で予算をいただいた笹川邸でおもてなしということで、今回3月3日、ひなまつりを楽しむ会が午前10時より開催される。お茶やひな菓子等をご用意しているので、ぜひ皆さん足を運んでいただきたいと思う。昔話の披露や、昔の遊びを子供たちと楽しみたいと思うので、どうぞ皆さんよろしく願います。

○議長（小田会長） 今、味方コミュニティ協議会からの3月3日のイベントのお誘いがあった。ほかにどうぞ。

○渋川委員 以前、白根地域生活センターの廊下から体育館へ行くところに段差があって、車イスや足の悪い人が通りにくいというお話をここでさせていただいた。すぐ解消された。安全に通っていくことができ、ありがとうございました。

○議長（小田会長） よかった。私も先週、利用したが、あの段差はなくなっていた。ほかに発言なさらたい方はどうぞ。

ないようである。おかげさまで、予定よりも随分早く会議を進ませていただいた。市長のおいでまで少し時間がある。会場の変更等をさせていただくが、少し早く時間が経過したが、2時40分に市長をお迎えしての会議を始めたいと思うので、2時40分までご着席をいただきたい。まだ40分ほど時間がある。何か皆さん方のほうで連絡あれば、ないか。

次回の会議の日程を決めさせていただく。次回の定例会は、いつも最終の水曜日ということなので、3月27日（水）午後2時30分から当講堂で開催ということでのよろしいだろうか。お差し繰りをいただきたいと思う。そして、第6期の最終の会議なので、自治協議会終了後、一堂に会しての懇親会を計画している。委員の皆さん方のご賛同と多くの出席をお願いしたいと思う。会場その他については、追って事務局から連絡いただくが、自治協議会本会議を終了後、直ちに会場を移して懇親会、区の幹部の皆さん方と一緒に楽しく6期をふり返って見たいと思う。ぜひともご参加をお願いする。では、次回の開催は、3月27日（水）午後2時30分より開催。差し繰りをいただきたいと思う。

2時40分まで休憩する。40分に着席をお願いする。

3 市長との懇談会

・2019年度 新潟市の取り組み

○議長（小田会長） 会議を再開する。

本日は、ご案内のとおり、就任後初めて、中原市長から私ども南区自治協議会の本会議において願っている。まず、市長より2019年度新潟市の取り組みについて、概略のご説明をちょうだいする。その後、皆さん方からそれぞれの取り組みについて、自治協議会、民間で活躍していらっしゃる団体、そして小学校の子供たち、それぞれから活動の内容を、あるいは取り組みの内容を市長へご紹介いただく。市長からの説明は、おおむね15分程度でお願いしたいと思っている。皆さん方からの活動の紹介及び意見交換をその後、45分程度、全体でおおむね1時間、午後3時40分ごろを閉会のめどとさせていただくので、なにぶんご協力をお願いする。

中原市長、よろしく願います。

○中原市長 皆さんこんにちは。ただいま、ご紹介いただいた、新潟市長の中原八一である。日ごろは小田会長はじめ、南区の自治協議会の皆さんから市政のさまざまな課題についてご支援とご協力をいただいていること、改めて感謝申し上げる次第である。今、会長からお話しいただいたように昨年11月18日に就任して約3か月ということであり、もっと早くこちらの南区に来たいと、市長室の窓から眺めて思っていたが、実際、市長に就任してみると、市役所の市長室で、毎日、市民を代表して私に会いたいというお客さんが次から次へとお越しになられ、また市役所の皆さんからも毎日、いろいろな課題について、報告やら相談ということがあり、今日、こうやって自治協議会の懇談会ということで出席することができ、大変ありがたく、またうれしく思っている。今日はせっかくの機会なので、私が初めて編成させていただいた次年度の新潟市の予算についてお話しさせていただくが、15分ということなので、イメージだけご紹介をさせていただき、あとはお配りした資料を見ていただいて、こんなことがあるということで皆さんからご承

知いただければ大変ありがたい。今日は、私の話というより、むしろ自治協議会の皆さんがいろいろ取り組んでいること、あるいは新潟市政に対するご要望、ご意見があれば承ると。こちらのほうが大事なことだと思っているので、しっかりまた皆さんの活動、そしてご要望をお聞きする機会にさせていただきたいと思っている。

まず、お配りした資料の2ページをご覧ください。2019年度の新潟市政というタイトルがあるが、私が市長に就任してまず掲げたのが、「未来に向かって『全国とつながる』、『世界とつながる』拠点都市・新潟」というスローガンを一本立てさせていただいた。また、ここには出てこないが、もう一つ私が常々言っているのが、田園と都市とが共存共栄するまち新潟と。このスローガンもここには出ていないが、掲げさせてもらっている。明治中期には、新潟県は日本一人口が多かったと言われているわけだし、また今現在においても230万人の人口がいる。そして新潟市は新潟県の県都であって、地理的にも日本海側の中心である。そしてまた東京からも近いということだが、北陸新幹線が開業して、新潟のこれまでの存在感と比較すると、少し県民も市民も自信を失いつつあるのかと思っているが、改めてそういうことから、私としてはこの新潟県都を活力ある新潟市にしたいという思いから、未来に向かって全国とつながる。世界とつながる拠点都市新潟を皆さんと一緒に築いていこうと。こういうことでひとつスローガンを掲げさせていただいた。

もう一つは、この政令指定都市は14の市町村が合併したが、水田面積が日本一である。だから、たくさんの農村部、田園があるわけだが、この田園と都市が共存共栄する一体感のあるまち。ばらばらではなくて、都市は都市、農村は農村ということではなく、私の気持ちとしては一体感のあるまち。すなわち都市の皆さんからはこの農村部、田園部を自然にもあふれ、また農村のある、こういう地域を抱えているこういう魅力を味わえるのだということと、また田園部の皆さんからは、自分たちの作る農産物を消費する地がなければならない。だから、都市部に自分たちの農産物を供給できる都市があるのだということで、お互いがその魅力を実感できるような都市と農村部。それが共存共栄するまちであればいいなという思いで、都市と農村部が共存共栄するまち新潟と。こういうスローガンを立てさせていただいたところである。

新潟駅が改築中であるのは皆さんご承知だと思うが、これは政令指定都市になってから新潟市が整備をしている最中である。富山や石川の金沢、観光地の長野にはすでに新しい駅ができている。新潟は遅れてしまっているが、新潟市の新潟駅というのは、新潟県の玄関でもある。だから、これをまずしっかり着実に整備をして、新潟の港、新潟の空港、これをもう少しつなげて、新潟の拠点性を高めていきたいと考えている。

3ページ目、来年度の予算編成のポイントということだが、総額3,922億円、対前年度比、今年度よりも120億円予算規模を増やして、3.2パーセント増の規模にさせていただいた。ご案内のとおり、この新潟政令市が合併したときには、貯金に当たる基金というものが360億円あったが、合併建設計画等の整備のために使ってまいり、10年間の間で約33億円に減少したということで、今年度大変厳しい予算編成をせざるを得なくなった。こういう状況だと、昨年、大雪が降り、除雪費だけで107億円かかったということなので、何かいざあったときのために、やはりある程度、この基金が必要になるので、この少なくなった基金をある程度、市民の皆さんが、我々が安心できるような規模にまで積み増しておきたいということであり、来年度、5億積み増すと40億になる。昨年大雪のときの新潟市の持ち出しが67億円なので、大体、40億の2倍くらい。この目標値は後で、来年度の中ごろに正確な目標値というものを皆さんにまたお示しするが、とりあえず40億の2倍くらいはできるだけ早く積み増しておきたいというのが、今現在の目標ということだ。

4ページをご覧くださいと、そのためにとりあえず3年間、集中改革期間と位置づけて、専門の課も設置をするし、その中でどういうものやっつけていこうかということを選んで、ニーズの高い事業に投資できる財政基盤の確立という表現を使っているが、必要な予算にその財源をもっと適切に振り向けていこうという考え方で3年間の集中改革期間を取り組ませていただきたいと思います。

7ページ、これからの全国どこもそうだと思うが、日本の直面している地域の課題として、高齢社会があるが、2015年の段階で、新潟市の人口が私の名前と同じ81万人あった。65歳

以上の高齢者が約22万人、高齢化率が27パーセントだったが、高齢化率が21パーセントを超えると高齢社会ではなく「超」がつく。超高齢社会ということになるが、新潟市はすでに高齢社会ではなく超高齢化社会ということに突入しているわけだ。さらに10年後という高齢化率が30パーセントを超えてしまうというような状況で、65歳以上の高齢者を現役世代の2人か3人で支えていかなければだめだということになるし、またもう一つの大きな問題というのは、皆さん感じておられると思うが、高齢者の人が夫婦2人で生活していれば、割と生活は何とかやっつけていけるが、今、お一人の高齢者が増えてきている。独居老人の方々が増えていて、こういう方々をずっと地域の中で安心して暮らせるようにしていかなければだめなわけで、もともとは子供がいたり、親族が周りにいたり、こういう方々が支えていければいいわけだが、そういう状況が許さないような時代になってきているわけだ。だから、それはどのように補っていくかという、やはり地域力だとか、市民の皆さんの力を活かして、高齢社会を支えていかなければだめだということで、地域包括ケアシステムだとか、8ページにあるようなフレイル予防をやってチェックをしながら健康維持していこうだとか、地域の支え合いだとか、そういうものを来年度以降の予算でも新潟市の事業としてやっていくということである。

10ページ目、教育の話だが、どちらかというと新潟市の教育というか、学力が全国的に上位だというイメージを持っている方というのは、恐らく少ないのではないかと思うが、実はこれまでいろいろ学校現場で取組みを進めてきて、平成30年度の全国学力テストにおける小学校での成績が国語、算数の分野だが、非常にいい結果になっており、小学校の学力の向上を中学の段階でも引き続き維持させて、さらに向上させていこうということで、新潟らしい教育の充実ということもさることながら、学力向上に向けて新潟市としても、これから力を入れて取り組んでいこうということである。

最後になるが、人口減少社会への対応という23ページだが、先日もマスコミでも報道があったが、新潟県の人口が減少して大変だというようなお話もあったが、総務省の調査によると、新潟市もマイナス555人転出超過ということになり、新潟の政令市だけでなく、大体、政令市の半分くらいが転出超過ということになっており、引き続き、全国的に東京の一極集中ということが言われているが、そういう傾向がこれからも継続していくと思うし、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向かって、やはり首都圏のほうが非常ににぎわいが出ているので、さらにそういう傾向が拡大する可能性があるという中で、新潟市としては、これからも人口減少をしっかりと危機感を持って取り組んでいかないと、ただ、人口が減っていただけだということになりかねないので、新潟市としてもしっかりとまたこうした人口減少の問題に対応すべく頑張っていきたいと思っている。簡単だが、来年度の実施計画ということで、一部をご紹介させていただいた。ありがとうございました。

○議長（小田会長） 市長、びったり15分、ありがとうございました。

今、中原市長から2019年度の新潟市をどういう方向に進めるかの概略についてお話をいただいた。冒頭、中原市長からもお話があったように、市長から私ども南区のことをもっと知りたいということで、まず南区の自治協議会はどんな自治協議会なのか。これをお話しさせていただき。続いて、地域活動のいくつかの例をここで市長からよくご検討いただき、私ども南区への理解を深めていただきたいと思っている。できるだけ多くの方からご発言をいただきたいと思っているので、ご発言の内容は簡潔にお願いします。市長から最後に私どもの発表をお聞きになり、コメントをちょうだいできればと思っている。

はじめに私ども南区自治協議会の概略について、私のほうからお話しさせていただき。まず、部会の役割検討特別部会の取組みと題して、お話しさせていただく。

昨年度、自治協議会の第6期がスタートした。部会は自治協議会提案事業の消化が活動の大部分を占めていた。そのため、自治協議会提案事業の企画や提案、実施の負担が委員の皆さん方にとってはとても大きく、本来の部会の役割を果たせない。あるいは本来の自治協議会の役割を果たせない状況になっていた。部会を市民と区の協働の要として機能させる必要性を痛感した。また、自治協議会の本会議においても、討論するテーマと報告だけの事項ときちんと分けて、スムーズな運営に努力すべきだという意見もたくさんいただいた。もっと自治協議会が活性化する方法は何かということをお私ども検討を加え、区長マニフェストなどの区政運営にかかる事項につい

て、本来、議論を深めていくことが、そしてそれを区政に反映することが本来の私たちの仕事でないかという結論に達した。そして、これらのことを受けて、部会の役割、検討部会を急遽、立ち上げて検討を進めてまいった。

まず、部会の役割のイメージ図についてお示しする。今までは各部会が提案事業に特化をして、日夜右往左往していた。そうすると本来、私たちがやらなければならない役割がどうしても手薄になってしまう。物理的に不可能になっていた。そこで、この提案事業そのものを少し詰めて、もっとほかのやり方を加えていったほうが、より本来の自治協議会の役割として機能することができるのではないかという結論に至ったわけだ。そして、この手が空いた部分、ほかに委託できるところは委託をし、本来の役割に特化していく。何をするのかということであるが、今まで見過ごしてきた区政、あるいは区長の政策マニフェストを我々が市民のサイドで検討を加え、検証を加え、そして評価をすることが必要でないか。こういう新たな役割を見いだすことができた。これは8区の中で私どもだけだと思うが、今、進めていることが、私たちにとって必要なのかどうか。あるいは正しい方向に向いているのか。あるいはその評価はどうかということを経験したところから、あるいは各コミュニティからの代表らをもって構成するこの自治協議会で検証、評価をしていく。こういうものを大きな仕事として加えることができた。これは大変いい結果だと思っているし、さまざまな観点で、あるいは部会の中でも検討を加える。そしてそれをさらに本会議の中で全体で発表していただき再評価したところである。

そしてどういう形で進めるかについては、先ほど出たPDCAのルールに乗って進めてきたわけだが、区長もこの動きを積極的に評価していただき、今すぐ短期的にできることはこれだ、長期的にはこういう方向でいくということでした。このように進めようというまさに区と私たち自治協議会、市民との協働の要としての機能がぴったりとお互いの一致を見て、進めさせていただいた。速やかに取り込む事項、これは何か。中長期的に南区が検討する事項はどれなのか。そして、さらに本庁との交渉の中で、予算を伴う事業はどれなのかということをしきりと区別し、そしてそのおのおのについて検証と評価を加えた次第である。そして、さらに今まで部会ですべて実施をしていたさまざまな事業について、あるいは各区一律500万円ですべて提案事業が予算化されていたが、私どもも整理をするところは整理をして、もっと大勢の市内各種のエネルギーを吸収したほうが、よりうまくいこうというので、Aの事業、あるいはCの事業、Eの事業おのおのが整理できるところは整理し、全体を350万で抑える。あとの残金150万円をおのおのの地域活動団体に委託しようという発案である。これはいわゆるまちづくり活動サポート事業としてスタートさせていただいた。大変好評であり、今年度は郷土愛にあふれる青少年の育成事業。臼井地区においては、空き店舗、空きガレージのシャッターで大壁画を描いてまちを美しくしよう。重要文化財の笹川邸を利用したおもてなし事業を進めよう。白根の旧商店街の町屋を何とか再興できないか。この四つを採択し、おのおのの団体に事業を委託した。間もなく成果があがり、来月の定例会でこの評価と検証が加えられる。あくまでもこれは補助金ではない。私どもの委託事業であるから、その成果、成果品をどう評価するか。また、私どもに課せられた大きな課題となる。事業の成果をどう評価し、来期につなげるかという課題がまた私どもの自治協議会に課せられてまいったことを認識している。今年度も、さらに今、審議をいただいているが、南区だけがこのまちづくり活動サポート事業を100万円さらに増額した。合計250万で募集を間もなく本格的にかけるところである。次回の審議が終わり次第、準備を進めさせていただき、大きな成果を上げたいものと思っている。いわゆる私たち自治協議会が本来、何をすべき、何をすることによって、市と協働できる、協働の要であるのかということを経験して、2年目からは実施に移したところである。簡単ではあるが自治協議会の特徴である。

続いて、梅津委員から平成29年度の4月に発足したばかりであるが、にいがた南区創生会議、いろいろなジャンルで活躍いただいている。南区創生会議の活動について、説明をしていただきたい。

○梅津委員 にいがた南区創生会議まちなか活性化部会部会長の梅津という。

平成29年度4月に10年、20年後の南区の明るい未来を具現化するため、にいがた南区創生会議を設立してから間もなく丸2年を迎える。この間、私たちは南区のまちづくりについて現状をふまえ、さまざまな検討やその解決方法など、活発な議論を重ねてきた。そして、イベント

の開催などを通して、地域、民間事業者、行政が協働で取り組むオール南区の土台づくりが確実に進んでいると感じているところである。私たちのこれまでの取り組み実績や今後の方向性などについて説明させていただく。

南区の現状についてである。昨年度、市から発表された地域カルテによると、南区は高齢化とともに人口減少が今後も拡大傾向にあると見込まれ、その対策は喫緊の課題である。あわせて市内8区の中で唯一軌道系の公共交通がなく、将来の移動手段を考えると、この地に住み続けていくことに不安を感じている区民も多い状況となっている。このような状況が続けば、空き家、空き店舗の増加や人口の流出などにより、南区の衰退は進む一方となってしまう。私たちは、これらの課題に対応するため、平成29年4月26日、海津会長をトップにいがた南区創生会議を設立した。

南区創生会議の概要である。創生会議は、南区内の医療、福祉、産業、経済、文化、観光などの各分野で活躍している民間団体を構成員としている。そして、まちなか活性化、交流推進、交通の三つの部会を設置し、それぞれのテーマごとに活動をしている。

主な取り組み事例についてである。こちらはこれまで取り組んできた事例である。8号春まちフェスタやフランス語で市場を意味するみなみマルシェなどを開催した。みなみマルシェは、南区の豊かな食をツールとして、南区に外から人を呼び込み、にぎわいの創出や交流人口の拡大を目的に実施するものである。昨年6月と7月の2回開催し、その中で見えてきたさまざまな効果や課題など、来場者アンケートの結果などを基に継続的に開催できる購買機会の提供やマルシェのブランド化に向けた取り組みに反映させていくほか、今後の創生会議の活動の参考にしていきたいと考えている。

南区の明るい未来の実現に向けた今後の取り組み1。南区の明るい未来の実現に向け、それぞれの部会が行政などと協働して、今後、取り組むこととしているテーマを記載している。地域の魅力向上発信を図るため、既存にイベント間の連携やSNSなどを活用したPR手法の検討。観光コンテンツの開発などに取り組む。

南区の明るい未来の実現に向けた今後の取り組み2。マルシェのブランド化に向けた検討や空き家、空き店舗の相談体制の構築を進め、成長性のある継続的な運営のために区民の利益を追求し、従来の拡大社会の手法とは異なった現状社会に適した新しい手法で南区と南区周辺の活性化とスパイラルアップを図る。

南区の明るい未来の実現に向けた今後の取り組み3。公共交通の利便性の向上に向けて試験運行による課題整理や近隣の交通拠点へのアクセス強化への検討を行う。

南区の明るい未来の実現に向けた今後の取り組み4。交通拠点、交流の場、情報発信の場を含む複合施設整備の検討にあたっては、地域産業の振興に寄与する施設。交通結節点の整備、交流の場の創出を目指す。新潟市移住モデル地区、地域活性化モデル指定。人口減少は全国の地方都市が抱える大きな課題の一つである。新潟市においても人口減少や少子高齢化社会への対応を最重要に掲げており、地域が主体となって移住、定住の取り組みを行っている地区を移住モデル地区に指定し、積極的に支援する制度を定めている。地区の先進的な取り組みにより、移住者の増加などの実績がある地区をHAPPYターンモデル地区、今後、積極的に移住、定住の取り組みを行う地区を移住推進モデル地区、地域の魅力を活かして、移住、定住につながる取り組みを行っている地区を地域活性化モデル地区に指定している。昨年10月、我々創生会議の取り組みなどが市に評価され、地域活性化モデルの第1号に認定された。

2019南区の明るい未来の実現のためにに向けた取り組み。

最後になるが、私たちは引き続き南区役所をはじめ、関係団体などとしっかり手を組み、創生会議の設立の趣旨にある南区の明るい未来を実現するため、さまざまな活動をまちづくりの大きなウェーブにつなげ、区内全域に波及、浸透するよう取り組んでまいります。あわせて、南区の魅力を再認識してもらおう事業を展開しながら、人口減少を食い止め、定住人口の増加に向けた地域の活性化に取り組み、南区のスパイラルアップを目指す。

説明は以上である。ご清聴ありがとうございました。

○議長（小田会長） 南区や私ども南区自治協議会と協働する南区創生会議は、若手を中心とした組織である。いろいろな観点から活躍をいただいた。ありがとうございました。

次に、南区の特色ある区づくり事業の中から、特徴的な取組みについて発言をしていただきました。未来創造教室という南区の事業は、事業開始後、7年目を迎えた。今年度より中学校に加えて小学校にもその対象を広げ、さまざまな取組みをお願いし、大きな成果をあげることができた。本日は、市立小林小学校の6年生の皆さん方から、人と人がつながりあう小林地区の実現のために、防災の視点からこうすべきではないかという提案をすばらしくまとめてきていただいたので、お聞き取りいただきたい。それでは、小林小学校の皆さん方、お願いします。

○小林小学校児童 これから、小林小学校6年生が取り組んだ南区未来創造教室の活動発表を行う、私たちは、人と人がつながりあう小林地区の実現のために、私たちができることについて防災に視点を当てて学習した。

昨年、日本各地で深刻な自然災害が起こった。小林地区だって例外ではなく起こりうることである。そこで私たちの大好きな小林地区の人たちがだれ一人欠けることなく安全に避難するにはどうしたらよいか。私たちにできることは何かを考えることにした。

1 小林地区の特徴。まず私たちは新潟市から配布されたハザードマップで、小林地区の地形や自分の家、避難所、予想される浸水の深さなどを調べた。白根郷は5年生社会科の教科書にも載っていたので、低い土地であることは知っていたが、ハザードマップで確認すると信濃川と中ノ口川に挟まれており、堤防が決壊したら危険だと感じた。また、このハザードマップを見ながら家族と避難場所や避難方法などを話し合った。話している中で、近所にお年寄りが多いことや、昼間、お年寄りだけの家もあることが分かり心配になった。そこで私たちは小林地区のことに詳しい小林コミュニティ協議会の会長の小田信雄さんに聞いてみた。すると小林地区の人口に対して、お年寄りは何と5人に1人の割合で、赤ちゃんや小さい子供、体の不自由な人を合わせると4人に1人は支援が必要だということが分かった。小林地区では、この要支援者に当たる人たちのことを各自治会長がよく知っていて、避難するときの担当者が決まっていることが分かった。小林地区には、みんなを助けるいいシステムがあって安心したとともに、うれしくなった。では、いつ、どのタイミングで、どのように私たちは避難をすればよいのか疑問に思い、調べてみることにした。

2 避難方法。南区地域総務課総務・安心安全グループの立川さんに避難のしかたをお聞きしたところ、安全に避難するには日ごろから避難情報を確認しておくことが大切だと教えていただいた。避難情報には緊急性の低いほうから避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急）の3種類がある。要支援者の方は、避難準備と言われたら、準備ではなく避難を開始しなければならないので、日ごろから準備をする必要がある。また、避難方法には、避難所へ移動する水平避難と、2階以上へ上がる垂直避難の2種類がある。小林地区の地形から言うと、避難指示が出て逃げ遅れたとしても、自宅の2階で垂直避難をして助けを待てば何とかなるということが分かった。私たちは昨年11月4日に行われた小林地区防災訓練に参加し、どのように水平避難をしたらよいのか学習した。まず自治会ごとに決まっている集合場所へ行く。人数確認後、安全な道を通って避難所へ移動する。避難所へ着いたら人数確認をし、本部に報告する。避難をするときは自治会ごとに集団で活動することが分かった。近所の人がいれば安心だなと感じた。防災訓練では、けがをしたときの応急処置のしかたやAEDの使い方、日ごろから備えておくことよいものなどの話があった。私たちにもできるかもしれないと思ったので、参加できなかった友達に紹介することにした。

3 私たちにできること。すり傷や切り傷は患部を洗って止血することは保健で学習したのだが、ガラスなどの破片が皮膚に入ったときは無理をせず、医者に診てもらおうとよいことが分かった。また、けがをして動けない人がいるときは大人を呼ぶこと。担架がなければ毛布で代用できることなども分かった。ほかに私たちにできることは、やはり日ごろの備えだろう。日ごろの備えには3種類ある。いつでも持ち歩くゼロ次の備え、いざというときの持ち出し品1次の備え、日ごろの備蓄2次の備えである。1次の備えについては、リュックにまとめておくとよいだろう。またはスーパーで売っているものを買ってもよい。では、2次の備えについて紹介する。食料と飲料は3日分を用意しておくことよいと言われている。その間に支援が届くからである。しかし、備蓄品には保存期限があるものもある。そんなときはローリングストック法といって循環備蓄をするとよい。これは備蓄品を普段から家庭で使い、使った分だけ買い足し、また買った分だけ備

蓄することである。このようにすれば、期限が切れたからといって廃棄せず、無駄がなくなる。また、災害時には情報を入手することが大切なので、携帯ラジオや携帯電話、電池、充電器、筆記用具、特に黒の太い油性マジック、公衆電話で使える10円玉を多めに用意しておくといだろう。私たちは小林地区の防災訓練に参加して、すごくためになった。しかし、この防災訓練に参加したのは300人程度。小林地区の人口の1割である。もっと多くの人に参加してもらって、防災のことを知ってもらいたいという気持ちになった。では、どうしたらみんなが防災訓練に参加するのだろうか。ほかの地域の防災訓練について調べることにした。

4ほかの地域の事例。中央区のある地域では、地域のまつりと防災訓練を一緒に行っていた。まつりというみんなが集まる行事を利用することで、多くの参加者が得られる。まつりによって交流が生まれ、災害時の連携につながる。また、テント設営は避難所設営に必要な技術を習得できる。また、ある地域では、小学校の運動会に子供が通っていない地域の人にも参加を呼びかけて防災訓練を行っている。調べて分かったことは、どの地域も防災訓練に人が集まる工夫をしているということである。人が集まれば、そこで交流が生まれ、人と人がつながりあい、いざというときに助け合える関係になる。これを小林地区でも生かせないかと考えた。

5提言。小林地区の防災活動や防災訓練を軸にして、多くの人々がつながりあう小林地区になるためのアイデアを考えた。一つ目は、防災情報を地域の人に配布することである。調べて分かったことをまとめたのがお手元の防災マップである。これを小林地区の人に配布することで、防災訓練に参加できなかった人にもお知らせできる。二つ目は、児童の名札に避難場所記入欄を入れることである。普段身につける名札に連絡先のほかに避難場所も記入してあったら、いざというときにどこへ行けばいいか本人も分かるからである。三つ目は、人が集まる防災訓練にする工夫である。私たちは四つ考えた。一つ目は、防災〇×クイズや防災カルタ大会などのイベントを行うことである。大人から子供までみんなで楽しみながら防災を学べるからである。二つ目は、参加者に防災すごろくをプレゼントすることである。防災訓練に参加してよかったと感じてもらうためにも、お土産は必要である。家に帰ってからも、防災について楽しみながら学べる。三つ目は防災ゆるキャラを作ることである。ゆるキャラを登場させて訓練を盛り上げる。四つ目は、防災訓練を白根カルチャーセンターで行うことである。多くの人に参加できる。私たちは人と人がつながりあう小林地区の実現のためにできることを防災を軸にして学習してきた。この学習を通して、小林地区では一人残らず安全に避難できるよう、自主防災のシステムがしっかりできていることや、地域の運動会にも防災に役立つ競技が組み込まれていることなどに気づいた。また、私たちは調べるだけでなく、自分ごととして考えたり、自分のできることから実行していったりすることが大切だと考えている。日ごろから防災の意識を高め、防災訓練や地域の行事に参加し、人とのつながりを広げたり、深めたりし、いざというときに私たちにできることはないか。手伝うと言えるようになりたいと思う。

○議長（小田会長） ありがとうございます。今、未来創造教室の中から、小林小学校6年生の防災についての取組みを紹介いただいた。

これまでの三つの発表、自治協議会に関すること、若手の活躍する活動、そして今の小学校の子供たちの提案の三つをお聞きになり、中原市長からコメントをちょうだいしたい。

○中原市長 今ほどはいろいろなご報告、お話ありがとうございました。まず、区自治協議会の提案事業の変更ということで、地域サポート事業にそれぞれ予算を振り向けて、それぞれの地区がサポート事業を展開して、非常に成果が上がっているというお話を聞かせていただいて、皆さんの工夫によってこういう活動が展開できて、素晴らしいと思ったし、また若い皆さんが南区創生会議を立ち上げて、マルシェを開催していただいたり、公共交通の問題について取り組んでいただいているということで、これからのこうした取組みを新潟市としてもしっかりとまた応援をさせていただきたいと思っている。

また、今ほどは未来創造教室の取組みということで、小林小学校の皆様からすばらしかった、ありがとうございます。学んだね、防災。これからもよろしく願います。ということで、よかった。

○議長（小田会長） 今、市長もおいでなので、委員の皆さん方から特にご発言があれば、発表していただきたいと思う。今の三つに限らず、本日の総合防災マップも配られていることであるので、関連することについての発言でけっこうである。意外と皆さん方、発言がなくておとなし

い。いつもの定例会と少し様子が違って、私もかえって困惑する。中原市長も非常におやさしい人なのでどうぞ自由に発言あればしていただきたい。

○田村委員 大変ご苦労さま。市長も昨年、就任されて2か月以上たつが、ようやく地域の実情なり、そういうものがお分かりになっておいでだろうと思う。そういったことで、特に南区の話だけさせていただきたいと思う。

今、今日の資料の中にもあった、バイパスが来月10日に開通ということもあわせて、どうしても国道の8号が大野大橋の手前で渋滞をして、時間どおりになかなかうまくいかないというようなことで、BRTも含めて、いろいろと市長はお考えのようである。そういったことで、中央環状線もかなりの予算をつけられたという話も聞いているわけである。とにかく南区全体を見てみると、新潟市の近場、三条市側のいわゆる南部といった新飯田、庄瀬、茨曾根、その辺が何か潤沢でないということで、今行われている国道の拡張、中央環状線の早期の解決というか、そういうものをしていったら、非常に南区も交通の便が通勤もよくなって、そして工場が来てということによってよくなっていくのかという気がしている。早急にひとつ市長から声を頂いて、早期にそういうものの審議ができるようお願いしたいと思う。新聞などの報道、ここにもあるように、特に私は感じているが、新潟空港へ新幹線を導入したらどうか。早期に新幹線を導入すれば、東京あたりから新潟を經由して各国へ出ていくというようなことで、歴史的に見ても、そういうものが非常に大事なかなど。新潟の開港150年をやる。そのおかげで新潟の発展がなってきたのだということをする、やはり外国に向けた施策というものがあるわけなので、新幹線を空港まで引き込んで、そしてやられたら、中原市長の政治の賭かもしれないが、ひとつ賭けてみていただきたいと思う。大変、駄弁であったが、お考え等お聞かせいただければ大変ありがたいと思うので、よろしく願います。

○議長（小田会長） 市長、間もなく国道8号バイパスが全線開通する。先ほどの会議でも、それが議題に上っていた。区民の期待は非常に大きい。梅津委員からもお話があったが、軌道系の交通が唯一、ない地域であるので、地域交通に対する市民の皆さん方の期待も非常に大きい。今、いろいろと、田村さんから大きな話も出たが、地域交通について少しコメントがあればいただければと思う。

○中原市長 今、副会長から南区における公共交通のあり方ということで、適切な指摘をしていただき、大変ありがたく思う。まさに私も同じような考え方に立っているが、とりあえずは3月10日にバイパスが開通するというので、一つ一つ進んでいるものを完成させて、地域の皆様方に喜んでいただくと。そしてまたその後、前進をさせていくということが重要だと思っている。

また、大野大橋の先の渋滞箇所については、国の支援を頂きながら、今、整備を進めているところなので、これもいずれ近いうちに竣工ができると見ている。

そもそもがこの南区に公共交通がないということが一番大きな問題だろうと思っているので、私もまだ就任して3か月で手がついていないが、皆さんのお考えを聞かせていただきながら、これは新潟市単独でできるものではなくて、公共交通運行管理者、業者の人たちが、事業者が必要になってくるので、そういう皆さんとのかねあいの中で、どうやったら南区に事業者の人たちが参入してくれるのかということこれからまた新潟市としても検討していきたいと思っている。

大きな話として、新幹線の空港乗り入れの話をしていただき、ときどき市民の人たちからも私に、新幹線の乗り入れやったほうがいいよという話をたくさん聞かせてもらったり、市長への手紙ということで要望される人がいるのだが、これは新潟市だけでできる話ではなくて、新潟県と新潟市と一緒にあって、どちらかという主導権としては県にあるわけだが、新潟市としては空港が新潟市にあるので、全く無関係というわけではなくて、一緒になってやらなければならないと思っている。考え方としては、東京駅に新潟空港駅が行き先だということ、東京をはじめとした全国の人たちに知らしめることによって、新潟というのは空港があるのだと、新潟に空港があることを知らない人たちもいるわけだから。日本海側からでも世界に飛行機が繋がっているのだということによって、新潟の存在感を改めて知ってもらえるのではないかと考えており、なるほど、そういうことであれば、意味はあると思っているが、いろいろな国際情勢の中で、新潟から飛行機に乗る人たちが、これまで減少してきて、それで今、110万人、新潟空港を利用する人ができたときで、そこまで乗る人たちが増えたら、空港乗り入れについて改めて考えようというのが

今の状況なのだが、田村副会長はすぐにでもという話をされたのだが、私としては今、できないからすぐあきらめたりするのではなく、新潟県民のずっと夢だと思っているので、少し長い目で見て、この問題を持続させながら、しっかりと温めて実現ができるように目指していくのがいいのではないかと考えている。

○議長（小田会長） 残念ながら予定の時間が迫ってきた。中原市長、私どもの副会長、青木智子さんが中原市長への熱いメッセージをお持ちであるので、ぜひともお聞き取りをいただきたいと思う。

○青木委員 中原市長、今日はありがとうございました。私ごとでは、自分は看護職である。看護の仕事をはげましていただく場でお会いしたことがあるので、本日、またお会いできたことをうれしく思っている。本日は南区の特色ある活動のうち、幾つかお聞きいただいた。南区はまさに田園と福祉という、田園部となっている。みんな自分の住んでいるところが大好きで、田園の魅力にあふれている南区だと思っている。南区が平和で安心して、暮らしやすいところになるように私たちも努力するので、中原市長からも、今後ともどうぞよろしく願います。

○議長（小田会長） お聞き取りいただけたらどうか。あと4分ほど時間がある。市長、最後に私ども南区自治協議会と南区に対するまとめをいただければと思う。

○中原市長 どうも今日は皆さんからいろいろなお考えや取組みを聞かせていただき、大変ありがとうございます。改めて自治協議会の皆さんが地域の中で活動していただき、そして地域の皆さんにお役に立っていただいている。こういう活動をこれからもしっかりと皆さんから引き続き、継続していただきたいと思っているし、また新潟市としても、あるいは南区としてもしっかりとまたサポートさせていただくので、引き続きのご支援とご協力をいただけるようお願い申し上げて、最後、皆さんへの御礼とさせていただきます。大変ありがとうございました。

○議長（小田会長） これをもって、中原市長と第1回目の私たち自治協議会との懇談会を終了させていただきます。ありがとうございました。

4 次回全体会の日程について

平成31年3月27日（水）午後2時30分から 南区役所4階講堂

5 閉会